



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.113



企業に伴走するデザイン事務所 商品から採用までプロデュース

【プロフィール】

高知市生まれ。母方の実家がある熊本に移り住み、デザイン会社や編集プロダクションを経て2015年に独立。2016年の熊本地震をきっかけに福岡へ移転。2021年に法人化し、(株)みずうみデザイン室を設立した。

株式会社みずうみデザイン室 代表取締役 濱田 佳世氏

顧客に寄り添う提案で ブランディングを支援

グラフィックデザインに留まらず、商品開発や採用活動のプロデュースまで活躍のフィールドを広げる、福岡市中央区薬院の(株)みずうみデザイン室。福岡市に拠点を置く従業員3名のデザイン事務所でありながら、地場企業から外資系企業までさまざまな案件に携わり、業界内外で注目を集めています。

みずうみデザイン室は、デザイン会社や編集プロダクションでグラフィックデザイナーとして働いていた濱田佳世さんが2015年に独立して創業。「システム会社でウェブデザイナーとして働き続けていくうちに管理職になり、デザインの現場から離れそうになってしまったんです。生涯デザイナーでいたかったので、

独立を決意しました」と振り返ります。独立当初は店舗のショップカードや名刺のデザインなどに携わり、徐々に仕事の幅が広がっていったそう。そして独立から10年目となった現在、ブランディングやプロデュースの仕事を中心に手掛けています。

「初めの頃は小さな店舗のロゴデザインに関わる程度でした。お客様から相談を受けるうちに提案が広がり、デザインの域を超えてトータルでブランディングのお手伝いを行うケースが増えました」。広報ツールのデザインはもちろん、商品のネーミング、撮影、店舗の空間演出、PR記事の作成、SNS運用支援など業務は多岐にわたります。

トータルブランディングに携わった代表的なものとして挙げられるのが、創業50年以上の歴史を持つ老舗洋菓子店

の看板商品のリブランディングです。ロゴ変更の相談から始まり、紙袋や箱、包装紙などのパッケージからキャラクターまでを一軒したほか、店頭ポップも担当した結果、洋菓子店の売上は大幅にアップ。以降、世界的な食品ブランドのアジア向け商品のパッケージ、福岡の有名カレー店のレトルト商品のパッケージなども手がけました。

また、福岡県糸島のいちご農家のブランド立ち上げから直売店の内装・外装、SNSも総合的にプロデュース。福岡商工会議所の展示商談会「クリエイターマッチング」にも出展するなど、デザイン事務所として事業領域を大きく拡大しました。



1



2



3



4

1 パンフレットから商品パッケージや紙袋まで、各種ツールのデザインを手がける。「強みを引き出し、トーンを整えるのがブランディング」と総合的に提案。

3 熊本・福岡の住宅メーカーの採用向けパンフレット。会社が大切にしている考え方や目指すビジョンが伝わりやすいようにデザインしている (CL.株式会社)。

2 糸島いちごの直売所はブランドのネーミング、レシピ開発から店舗づくりなどトータルでプロデュース (CL.slowberry strawberry)。

4 プロダクトデザインまで担当したまな板。商品の形・厚さ・軽さ、パッケージ、パンフレットなど、随所にこだわりが詰まっている (CL.日本サンダイン株式会社)。

“会社らしさ”が伝わるツールで 人手不足解決へ

商品ブランディングと店舗プロデュースに加え、みずうみデザイン室が得意としているのが、企業の採用ブランディング。採用サイトのデザインや会社案内のパンフレットなどを作成しています。そこで大切にしているのが、その会社らしさを生かすことだといいます。「企業からよくある依頼は『他の会社とは一味違ったデザイン』。もちろん、見たことがないような新鮮さを大切にしていますが、それ以上にその会社がどんな想いで事業に取り組んでいるのか、ビジョンやカルチャーを整理して求職者に伝えるのも、私たちの仕事だと思っています。そのため、はじめに社員の方々にインタビューをして、会社としてのメッセージをつくります」と、企業の魅力を理解することから丁寧に進めていきます。

そのような姿勢で作られた採用ツールは成果を上げ、例えば、ある住宅メーカーのエントリー数は、前年度比で230%超。このほかにも、国内大手通販会社やシステム会社など、さまざまな企業の採用やコーポレートブランディング

を成功に導いてきました。中には、クリエイターと企業のマッチングを支援する福岡商工会議所のサイト「クリエイターマッチングKyushu」に登録したことで取引につながった事例も。濱田さんは、採用活動を通じて企業の価値観や理念に対する社員の理解を深めることで、インナーブランディングにもつながり、社員のモチベーションアップも期待できるとしています。

成果が実るよう 一つひとつ丁寧なデザインで サポート

直近では、クライアントと協力して商品そのものの開発まで行うようになったみずうみデザイン室。「これからも手を抜かず、緻密かつ丁寧なデザインをしていきたいです。スタッフが女性ばかりなので可愛いデザインが得意だと思われるがちですが、じつはロジカルにデザインを考えています。クライアントの強みや長所を最大限に打ち出せるよう工夫を凝らしながら、新鮮さにこだわったデザインや商品を提案していきたいです」と濱田さん。

みずうみデザイン室が大切にしてい

るのは「果実をもぎとる」というビジョン。「結果が実るまで、成果が実になるまで。美しいものをデザインしても成果が出なければ意味がありません。私たち自身が、お客様のファンになること、好きになることを大切にしながら、結果を出すデザインで世界を満たしていきたいです」と濱田さん。今後は商品づくりや店舗づくりなどの開発領域にさらに注力していきたいといいます。好調の採用ブランディングについては「いま本当に人手不足で悩んでいる会社も多いのではないのでしょうか。その課題に対してデザインで力になり、結果、福岡の会社が元気になると嬉しいです」と意気込んでいます。

取材日：6月9日



株式会社みずうみデザイン室

〒810-0022 福岡市中央区薬院
2-3-5 エコール薬院703
<https://www.mizu-umi.com/>

